

「XML マスター：ベーシック V2 試験」

試験時間	60 分
出題数	50 問
合格基準	70%

試験ガイド

セクション1 XML 概要

XML の概要

- XML の特徴
- XML の目的

XML 関連技術の概要

- W3C 及びその他の標準化団体が定める XML に関連する技術の名称とその概要 (XPath、XLink、XQuery、XPointer、DOM、SAX、SOAP、XHTML など)
- W3C 及びその他の標準化団体が定める、業種や使用用途ごとの XML の応用的な仕様の名称とその概要
- XML の構造を定義するスキーマ定義言語の目的
- XML Schema と DTD の定義内容や機能の違い

セクション2 XML 文書の作成

文法

- XML 文書内で指定する名前の規則、利用可能な文字
- タグを用いた XML 文書の記述方法
- XML 文書を構成する宣言、要素、コメント、文字参照、処理命令の記述規則
- XML 文書を構成する文字データとマークアップ (タグや参照やコメントなど) の記述

方法

- XML プロセッサ (XML パーサー) の役割

要素、属性、実体

- 属性を含む要素の記述
- 実体の種類
- XML プロセッサによる実体と参照の扱い
- 文字参照の利用方法
- 定義済み実体の利用方法
- 実体を参照する方法

妥当な XML 文書、整形 XML 文書

- 整形 XML 文書の記述方法
- XML 文書が妥当であるための記述方法
- 妥当な XML 文書と整形 XML 文書の違い
- 指定された DTD に対して妥当な XML 文書の作成
- 指定された XML Schema に対して妥当な XML 文書の作成

特殊な文字/文字コード、エンコーディング/XML 文書の正規化

- 文字参照
- XML 宣言とテキスト宣言
- 空白の扱い
- XML 文書の行末の扱い
- 属性値の正規化

セクション3 DTD

基礎

- 文書型宣言
- DTD の内部サブセットと外部サブセットの記述方法
- DTD の内部サブセットと外部サブセットの違い
- 内部実体と外部実体解析対象実体と解析対象外実体

内容モデル/要素型宣言/属性リスト宣言/実際の処理/エンティティ宣言

- ・ 要素型宣言
- ・ 要素の内容モデルの定義
- ・ 属性リスト宣言
- ・ 属性の型
- ・ 属性のデフォルト
- ・ 実体宣言

- ・ パターンの記述と、パターンとノードの一致
- ・ XSLT による出力処理

スタイルシート内で記述する XPath 式

- ・ 基本的な演算子
- ・ 基本的な関数
- ・ ロケーションパス（木構造のノードの指定）の基本的な記述方法

セクション 4 XML Schema

基礎

- ・ XML Schema 文書の構成
- ・ XML Schema 名前空間
- ・ XML 文書と XML Schema 文書の関連付け

データ型/記述方法/実際の処理

- ・ XML Schema の組み込みデータ型
- ・ 単純型と複合型
- ・ 型の拡張と制限
- ・ 要素の定義
- ・ 属性の定義

セクション 5 XSLT, XPath

基礎

- ・ XSLT の目的
- ・ XSLT の適用用途
- ・ XSLT スタイルシートの構成
- ・ XSLT 名前空間

各要素/テンプレート/文字エンコーディング/実際の変換処理

- ・ XSLT の代表的な要素の記述方法とその機能
- ・ テンプレートルールとテンプレート

セクション 6 名前空間

XML 名前空間

- ・ XML 名前空間の定義内容
- ・ XML 名前空間の適用用途
- ・ XML 名前空間の記述方法
- ・ XML 名前空間のスコープ（有効範囲）